



令和元年
6月1日発行

発行 栗林校区コミュニティ協議会
高松市栗林町3丁目2-12 TEL/FAX 835-5399
E-mail: riturin-c@mc.pikara.ne.jp



10連休
GW

「瀬戸芸」と2人3脚 県内の行楽地は人、人、人の波



改元に伴う平成から令和にかけてのゴールデンウィーク（GW）期間中（4月27日—5月6日）の栗林公園など県内主要行楽地の人出は85万人を超し、前年に比べ約23万人も増加しました。GW期間中、他県では悲惨な交通事故や事件が多かった中で、県民にとっては嬉しい悲鳴となったようです。観光地では、金毘羅さんがほぼ倍増の約16万人。次にレオマワールドやさぬきこどもの国、国営讃岐まんのう公園と続き、わが校区の栗林公園は約3割増の4万5868人の入園者がありました。



人出を後押ししたのが、GW直前に開幕した3年に1度の「瀬戸内国際芸術祭2019」（瀬戸芸）。香川、岡山の12の島々と高松港、宇野港を舞台にした現代アートの祭典。春会期（5月26日まで）を皮切りに、夏（7月19日—8月25日）、秋（9月28日—11月4日）と3会期に分けて、合わせて107日間開催されます。全国の作家が、会場となる島々の風土や歴史を掘り下げ、個性あふれる作品約150点を展示、国内だけでなく外国からの美術ファンも多く詰めかけています。

栗林公園は前年度より3割増し

瀬戸芸の開幕からGW最終日までの11日間で17万4000人近くが来場。3年前の春会期の1.7倍にも達しています。会場別で最も多いのが直島で約4万6000人。

開催地の島々を訪れた人が、まず口にするのが「瀬戸芸が始まるまでは、静かだった島が、始まった途端、アートを通して生き返ったように活気づいていました」と驚いたように感想を語っています。



今回、坂出初の沙弥島で4月29日に開かれた「万葉茶会とその講演」に参加した野田法子栗林校区婦人会長。「日本最古の歌集・万葉集に因んだ沙弥島での万葉茶会は、人々が美しく心を寄せ合う、という意味を込めた新元号『令和』にふさわしく感動しました。また、輝く女性の代表、池坊保子さんの講演もテーマの『華』にふさわしく大変参考になりました」と野田会長。

毎回、瀬戸芸を楽しんでいる菊池道子さん（栗林校区コミュニティ協議会広報部会副会長）は連休明けの5月9日（木）、初めて「宇野・犬島」コースを巡ってきました。かねてから香川から遠い犬島に思いを寄せ、チャーター船を利用し「オフィシャルツアー」での参加。

菊池さんは「整備が行き届いた宇野港では『舟底の記憶』と『宇野のチヌ』と題した、創造性豊かな作品に驚きの連続でした。犬島では『家プロジェクト』をテーマにした5つの邸を見学。地熱と太陽熱だけのエネルギーを利用した犬島精錬所美術館は、華やかだった往年の精錬所がしのばれました」と目を奪われた様子でした。

栗ちゃん発信



平成から令和へ。新時代がスタートしました。前天皇陛下が退位され、新天皇が即位されました。特に印象に残ったのは、ご即位が決まり、昨年12月、前陛下が記者会見で語ったお言葉。「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに安堵しています」と、目をうるませて語られました。昭和8年生まれの前陛下は、相次ぐ戦争、そして敗戦、戦後の混乱期を身を持って体験されました。「平和」への思いは特別だったことがうかがわれ、胸を熱くして聴き入りました▼さて、史上初の大型連休（10連休）を終え、新時代を迎えました。連休期間中、天候にも恵まれ、瀬戸芸も開催中で、県内各地の観光地は大賑わいだったようです。わが校区の栗林公園も例年のゴールデン・ウィークを大幅に上回る入園者が訪れました。ここ数年の傾向として、外国人観光客が目立ちました。自然豊かな江戸初期の大名庭園に目を奪われました。「オー、ワンダフル！」を連発していました。公園を代表するニシキ鯉も「コイサポ」が功を奏し、だいぶん復活。6つの池を悠々と泳ぎ、その勇姿を披露していました▼来年は56年ぶりの「東京五輪」。栗ちゃんが社会人1年生の時が五輪の年でした。2回も五輪を体験（但し元気であれば）できるとは夢のようです。鬼籍に入った先輩や同僚、後輩の分まで胸に焼きつけて、日本選手の活躍を見守りたいと、ワクワクしております。令和も平成と同様、平和が続くといいですね。

地域の「安全・安心」について 初の女性警視 高松南署交通官 安富さんが講演

栗林校区婦人会(野田法子会長)の令和元年度総会が5月11日(土)、栗林コミュニティセンターで開催されました。

会長・来賓挨拶などに続き、平成30年度の事業報告や令和元年度の事業計画案などが議題となりました。新年度の事業計画では、「女性が輝く～心を寄せ合い 元気な地域社会が輝く～」をテーマに、全体研修や安心・安全活動、青少年育成と福祉などが取り上げられました。

このあと、基調講演があり、香川県警初の女性警視となっ

た安富行美・高松南警察署交通官が「安全安心なまちづくり」をテーマに基調講演。豊富な経験を通して、多発する高齢者の交通事故や詐欺事件などについて、女性の視点から分かりやすく話し、地域を挙げての取り組みの大切さを訴えていました。

席上、婦人会活動に貢献のあった次の方に野田会長から感謝状が贈呈されました。(順不同・敬称略)

岡崎ケイ子、久保和恵、永森尚子、播磨トヨコ、三原ヨシエ、大屋敷ヤス子、斉藤コタカ、濱田敬子、正木綾子、横井昭子



新委員長に廣瀬さん

栗林校区ふれあいサロン

藤塚町・室新町・桜町の3地区で月1回実施している「栗林校区ふれあいサロン」運営委員会の臨時役員会が5月15日(水)、栗林コミュニティセンターで開かれ、役員改正案などについて話し合われました。

役員改選では、7年前の同サロン発足以来、委員長を務めていた富田貞夫さんが退任。新委員長に副委員長だった廣瀬忠勝さん(桜町地区)が就任しました。廣瀬副委員長の後任には、田面秀樹さん(室新町地区)が就任。なお、富田さんはスタッフとして残り、相談役となりました。

このほか、10月3日(予定)に、3地区合同のイベントを企画しています。



水さんのヨモヤマ話



栗林校区にも以前に比べると少ないですが、田んぼがまだ残っています。田んぼに水を張ると、どうしてもすぐにカエルの鳴き声が聞こえてくるのか、不思議に思ったことはありませんか。夜、窓を開けて寝る時、カエルの声がうるさく思う方もいると思います。ではどこからカエルはやって来るのでしょうか・・・?

水を張っていない田んぼでは、オタマジャクシは育ちません。カエルは寒い冬の時期には土や泥の穴の中にひっそりと潜り冬眠し、田んぼに水が張られるのを待っているのです。カエルはいつも水の中にいるイメージがありますが、基本的に樹上生活をする生物で、クモなどの昆虫類を食べて生きています。そして産卵期にだけ水を探る習性があり、田植えの時期とカエルの産卵期のタイミングが同じなため、田んぼにカエルが集まるのです。

稲刈り後、田んぼに水が無くなるとカエルは森や草が生い茂る場所へ移動して生活し、寒い冬になると土や泥の中、枯葉の下などで冬眠し、田植え時期に再び田んぼに戻って産卵するという生活を繰り返しているのです。

6月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
廃食油収集のお知らせ		日時：6月8日(土) 10時～12時 場所：栗林コミュニティセンター 西側自転車置き場(倉庫前)				1 ジュニアユース
※廃食油をお持ちになられた方は記念品がもらえます。						
2 英語・数学教室	3 楽しいストレッチ	4 のびのびクリッキー パソコン教室	5 高齢者お食事会	6 えるふぁみりい 桜町サロン ヒップホップ	7	8 廃食油収集
9	10 女性教室 楽しいストレッチ	11 パソコン教室	12	13 クリッキー 藤塚町サロン 子ども将棋クラブ	14 リラックス	15 プレーパーク 将棋自由対局
16 サンデーシアター 英語・数学教室	17 楽しいストレッチ	18 えるふぁみりい のびのびクリッキー いきいき倶楽部 パソコン教室	19 高齢者教室 プレママ広場	20 ヒップホップ えるふぁみりい	21 	22 再発見77- ジュニアユース 体験らくらくピアノ
23	24	25 リラックス ハーバリウム	26 親子リミックス	27 えるふぁみりい 室新町サロン 子ども将棋クラブ	28 家庭教育学級	29 保護司会講習会 食改料理教室
30 歌声広場						